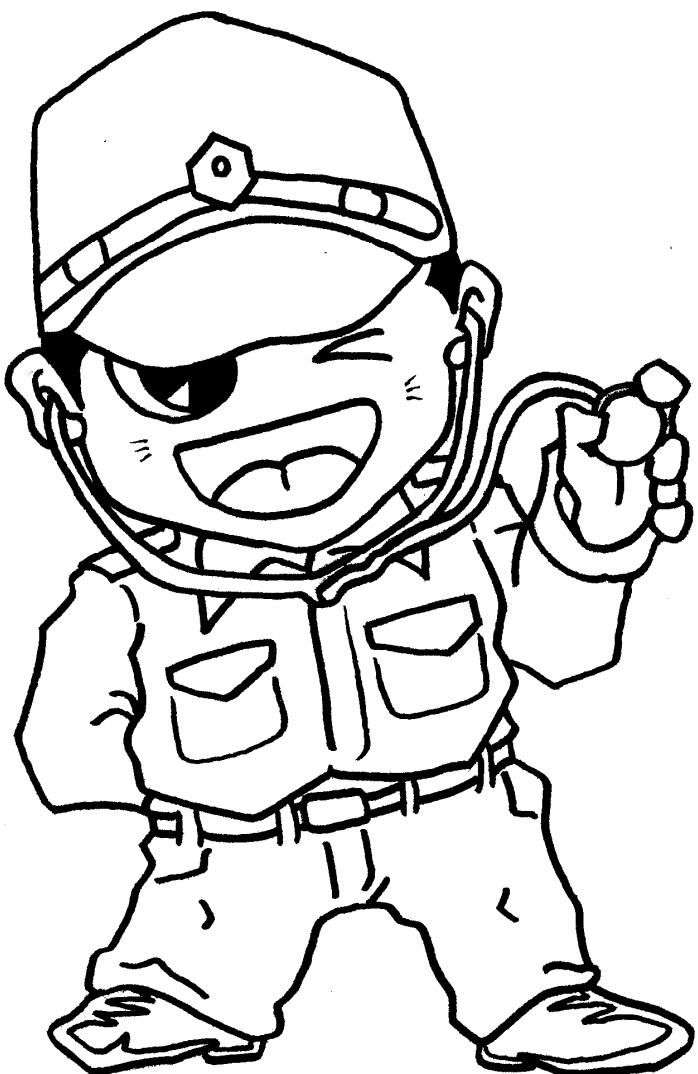


救急・救助統計



救急救助統計

救急件数

平成23年中の救急出場件数は6,217件（1日平均の出場件数は約17件）で、前年と比べ636件（11.4%）の増加となり、小牧市消防本部発足以来、初めて6,000件を超えた。事故種別の内訳は、急病が3,990件（64.2%）と最も多く、次いで交通事故が740件（11.9%）、一般負傷が685件（11.0%）の順になっています。中でも急病の増加が著しく、昨年から445件（12.6%増）増え、出場件数の半数以上を占めています。また、救急搬送人員についても、前年と比べ546人（10.3%）の増加で5,840人となり、乳幼児を除くすべての年齢区分で増加しました。中でも高齢者（65歳以上）が320人（13.5%）増え、搬送人員の46.0%を占めています。

バイスタンダー（その場に居合わせた者）の重要性

突然倒れた傷病者の命を救い、社会復帰に導くためには「救命の連鎖」が必要不可欠です。この「救命の連鎖」は、①心停止の予防②心停止の早期認識と通報③一次救命処置（迅速な心肺蘇生法と迅速な除細動）④二次救命処置と心拍再開後の集中治療という四つの輪（鎖）から成り立っており、バイスタンダー、救急隊、そして医師や看護師が連携することにより救命効果が高まります。

平成23年中に救急隊が搬送した心肺機能停止（心臓及び呼吸が止まった状態）傷病者147人のうち、バイスタンダーによる心肺蘇生法が行われたのは108人で、このうち6人が社会復帰されました。また、AEDを使用した除細動は3人に行われており、全ての方が社会復帰しました。このことから、突然の心肺機能停止傷病者には、早期通報と心肺蘇生法がなされ、迅速に除細動が行われることが社会復帰に繋がると考えられます。

当市では毎月19日と第2日曜日に「普通救命講習会」を定期開催しており、一般市民の方々に心肺蘇生法やAEDの使用方法を分かりやすく指導しています。今後は、さらに短時間で、かつ、小学生（高学年）でも受講可能な「救命入門コース」を取り入れるなど、応急手当普及の裾野を広げるための施策に取り組みます。

救助件数

平成23年中の救助出動件数は66件（1ヶ月平均6件）となり、前年と比べ1件の減少となりました。

事故種別の内訳は、交通事故30件（45%）、建物等による事故18件（27%）、その他の事故6件（9%）の順であり、特に交通事故は全体の約半数を占めております。

救助人員については7人減の42人となりました。